

研究課題名	急性胆嚢炎に対する bailout procedures 移行の予測因子とその有用性
所属(診療科等)	長崎みなとメディカルセンター 消化器外科
研究責任者(職名)	中山嵩士 (医師)
研究期間	承認日 ~ 2025年4月30日
研究目的と意義	急性胆嚢炎に対する緊急手術での手術困難症例において、術中の重篤な脈管損傷を避けるために回避手術 (bailout procedures) を用いることがガイドラインで推奨されていますが、その有用性については議論があります。当院にて急性胆嚢炎に緊急手術データを用いて bailout procedures の有用性について検討し学会発表にて開示することは、今後同様の症例の手術をする際の治療指針を判断する一助となります。
研究内容	●対象となる患者さん
	当院にて2015年1月1日~2024年8月31日の間に急性胆嚢炎に対して緊急で腹腔鏡手術を受けた患者さん
	●利用する情報
	<ul style="list-style-type: none"> ・患者背景：年齢、性別、BMI ・臨床検査：WBC, CRP, Alb, T-Bil, ALP, PT-INR, HbA1c ・画像検査：腹部CT (胆嚢腫大、頸部壁肥厚、頸部結石嵌頓、周囲脂肪織濃度上昇、十二指腸や大腸の壁肥厚、腹水、胆嚢の造影効果) ・術中因子：術式、術者、助手、手術時間、術中出血量、ドレーンの有無 ・術後因子：ドレーン抜去までの期間、術後在院日数、術後合併症、病理組織診断
	●研究方法
	Bailout procedures 施行の有無により二群間に分け、比較検定を行います。
問い合わせ先	<p>所属：長崎みなとメディカルセンター 研究開発センター</p> <p>住所：長崎市新地町6番39号</p> <p>電話：095 (822) 3251 (内線3553)</p> <p>受付時間：月~金 9:00~17:00 (祝・祭日を除く)</p>